

令和7年 第10回定例教育委員会会議録

1. 開催日時 令和7年10月22日(水)
午後3時00分～午後3時45分

2. 開催場所 柏原市教育委員会 会議室

3. 出席した委員
教育長職務代理 田中 保和
教育委員 西村 弥生子
教育委員 太田 貴之
教育委員 田辺 恵美

4. 出席した職員
教育部長 桐藤 英樹
教育監 安田 典子
教育総務課長 稲山 佳史
指導課長 小室 吉昭
学務課長 岡田 香織
事務局教育総務課 塩谷 行由

5. 議事案件
議案第21号 柏原市教育委員会表彰について
議案第22号 柏原市立学校園教職員人事基本方針について
議案第23号 令和7年度すくすくウォッチの結果の公表内容について

6. 報告事項

7. 会議録の承認及び会議の要旨

田中教育長職務代理：それでは、令和7年第10回定例教育委員会会議を開会します。本日は教育長が欠席のため、私が進行を務めます。本日の会議録署名委員は、田辺委員にお願いいたします。次に、事前に送付させていただいております会議録につきまして、ご意見等ございませんか。

委員全員：なし。

田中教育長職務代理：それでは、会議録は承認することにいたします。本日の議事に入っております。本日の議事案件は3件です。どうぞよろしくお願いいたします。議案第21号につきまして、教育総務課稲山次長より説明をお願いします。

稲山次長：議案第21号柏原市教育委員会表彰について説明させていただきます。先日表彰審査委員会が開催され、本年度の被表彰者につきましては本日お配りしております資料のとおり、社会教育功労賞1名、文化・芸術功労賞2名、体育・スポーツ奨励賞2名と1団体でございます。以上、ご承認賜りますようお願いいたします。

田中教育長職務代理：ご質問、ご意見等ございましたらお願いいたします。

委員全員：なし。

田中教育長職務代理：ないようでございますので、議案第21号について、原案どおり承認してよろしいでしょうか。

委員全員：異議なし。

田中教育長職務代理：それでは議案第21号柏原市教育委員会表彰については、原案どおり承認することにいたします。次に、議案第22号について、学務課岡田課長より説明をお願いします。

岡田課長：議案第22号柏原市立学校園教職員人事基本方針について、学務課よりご説明いたします。学務課といたしましては、異動は最大の研修であり、育成につながるの考えを大切にしながら、できるだけ見通しを持たせた人事異動を行うとともに、変化にしやすいかに対応でき、成長の機会ととらえることのできる人材育成に努めてまいり所存です。

お手元の資料に沿ってご説明いたします。ページをめくっていただいて、2枚目から3枚目の表面にかけて、「令和8年度柏原市立学校園教職員人事基本方針（案）」を、続いて「令和8年度柏原市立学校園教職員人事基本方針 取り扱い上の留意事項（案）」をお示ししております。

変更点につきましては、本議案の最後に、それぞれの新旧対照表をつけております。新旧対照表をご覧ください。令和8年度当初の異動について、大阪府の「令和8年度公立小学校、中学校及び義務教育学校 教職員人事取扱要領」において、異動年限が変更となりましたので、柏原市においてもそれに準じて変更を行います。

令和7年度は5年以上勤務する者の異動を積極的に推進するものでありましたが、令和8年度より、「現任校に4年以上勤務するもの」と変更しております。今後、新規採用職員以外の職員について、現任校での勤務は最長8年となりますが、今年度は異動年限に関する移行期間の最終年度であり、現任校での勤務が9年目である者がいますこと

から、「延長は9年を上限とする」といった表現としております。なお、幼稚園の人事異動につきましては、今年度も引き続き、こども施設課と協働して人事ヒアリングを行い、見通しを持たせた人事異動を進めてまいります。以上、ご審議いただきますようよろしくお願いいたします。

田中教育長職務代理：ご質問、ご意見等ございましたらお願いいたします。

委員全員：なし。

田中教育長職務代理：ないようでございますので、議案第22号について、原案どおり承認してよろしいでしょうか。

委員全員：異議なし。

田中教育長職務代理：それでは議案第22号柏原市立学校園教職員人事基本方針については、原案どおり承認することにいたします。次に、議案第23号について、指導課小室課長より説明をお願いします。

小室課長：議案第23号令和7年度すくすくウォッチの結果の公表内容について、指導課よりご説明申し上げます。まず資料についてですが、全国学力・学習状況調査と同様に、A4横の「結果概要」とこれまでのように詳細を記した冊子を「結果に関する参考資料」として作成しております。なお、「結果に関する参考資料」は、概要版の下に記したQRコードやリンクから見るようにいたします。

それでは、まず概要版を使って説明いたします。調査目的及び調査対象学年はこれまでと変わりはありません。実施内容は、5年生が、国語、算数、理科という教科の調査と教科横断型問題である「わくわく問題」、アンケートでございます。6年生は、教科横断型問題である「わくわく問題」、アンケートでございます。

各教科の平均正答率といたしましては、グラフ赤色が柏原市、青色が大阪府になり、5年生は全ての教科で大阪府を上回っています。また、わくわく問題についても、5・6年生とも大阪府を上回っています。下は、同一学年での比較で、同一集団ではありませんので単純な比較はできませんが、5年生の算数以外は上昇しております。

右にまいりまして、児童アンケート結果では、「どこに行っても、新しい物事や経験を探す」「何事にも一生けんめい努力する」については、大阪府と比較して強みの見られる結果でした。課題の見られる項目としては「授業で端末を使って、必要な情報を調べる」「授業で端末を使って、自分の考えを書きこんだり、友だちと意見を交流したりする」が、昨年度と比較して、やや改善傾向にありますが、府との比較では、低い結果となっております。

では、詳細については、「結果に関する参考資料」を用いて説明いたします。1から3ページは、各教科の平均正答率の問題別概要になります。4ページは、大阪府平均と比較して、正答率が高い問題を取り上げています。1問目の問題はローマ字を扱った問題です。正答率は府平均より約8ポイント高くなっています。また、すくすくウォッチの問題では準正答が設定されていますので、準正答率も記載してある問題がありますので、お知りおきください。5ページは、大阪府平均と比較して、正答率が低い問題を取り上げています。1問目の問題については、市、府ともに正答率が低く、準正答率が高

いという特徴がありましたので、ピックアップしています。「図形を構成する要素の位置関係に着目して、2種類の三角定規を組み合わせることができる図形を考える」という主旨の問題で、1から4の選択肢の中から1・2・4を選択できた割合が4%のみ、十分に回答条件を満たしていない準正答の割合が84.5%となっております。

続きまして6ページはわくわく問題についての問題別概況となっております。6ページで着目する点は、表の左側「観点」の「興味関心のある事柄について意欲的に工夫して相手に伝える」という区分では、5年生6年生5・6年生全体においても、府平均より5ポイント以上高い結果となっております。

また、左側「問題をとらえる」の「会話から読み取る」という区分では、5年生において府平均より2.4ポイント下回っています。この2点について7ページ、8ページでお伝えします。7ページは正答率が高い問題になります。7ページは大阪府と比較して正答率が高い問題を取り上げています。この問題は自分の考えを理由や根拠を明確にして伝える、記述形式の問題であります。5年生6年生ともに府平均より5ポイント以上高い値となっております。

8ページは逆に、大阪府と比較して正答率が低い問題です。この問題は先程触れましたように、「会話から読み取る」問題であり、5年生は府平均より3.2ポイント低い値となっております。先程「自分の考えを理由や根拠を明確にして伝える記述問題」に強みがあると申しましたが、理由や根拠を明確にして伝えるためにも、「文章や資料、会話から正しく読み取る力」の改善の必要性が見られます。

9から11ページでは、児童アンケートの回答状況をまとめています。11ページをご覧ください。強みのみられる項目では、最初の概要資料でもお伝えしましたとおり、粘り強さ、学級の安心感、家庭での居場所があることを読み取ることができます。

一方で課題のみられる項目では、大阪府と比較してタブレット端末を活用した授業についてピックアップしています。具体的に言うと、42番では本やインターネット等で調べる活動について府平均を下回っています。また、52番、53番、54番では授業でのICT機器の活用頻度について問う質問ですが、具体的な活用方法「52番は自分にあつた問題やドリル等に取り組む」「53番は必要な情報を調べる」「54番は自分の考えを書き込んだり友だちと意見を交流したりする」が挙げられていますが、「授業で」とありますので、教員のICTに対する認識についても確認が必要です。10ページに戻っていただくと、参考として教員アンケートにおける「ICT活用」に関する回答状況をまとめています。45番から48番の質問では、ICTを活用する方法と場面ごとに、ICT機器の使用頻度が問われています。直接、ICT活用頻度と学力向上に相関関係があるわけではございませんが、子どもたちの結果も府と比較して肯定的回答が低いことから、活用頻度についても、改善を図る取組みが必要だと感じております。今年度、端末を入れ替えたことで環境が改善され、今後、活用についても改善されると考えております。

そして12ページについては児童アンケートから、「未来に向かう力と好奇心」についてまとめています。下のグラフを見てみると、令和6年度と令和7年度の結果は概ね

同様の数値を示していると言えます。

教育委員会としましては、分析結果を市内で共有するとともに、学力向上に向けた取り組みを推進してまいります。報告は以上でございます。ご審議いただきますようよろしくお願いいたします。

田中教育長職務代理：ご質問、ご意見等ございましたらお願いいたします。

太田委員：結果概要の「課題のみられる項目」が2つありますが、両方とも「授業で端末を使って」となっているので、これは子どもたちではなく、教員側の問題だと思います。また、以前からお話いただいているように、タブレット端末を使ったからといって学力の向上とは相関関係がないとのことでした。それではこの項目の数値を上げることに意味があるのかどうか分からないですね。

小室課長：授業改善が進むと、学力が上がっています。そして、授業改善が進んでいる学校ではICTの活用が上がっていることが分かっています。直接的な関係ではありませんが、一要因としてICTの活用も必要なのかなと考えております。

太田委員：現状、ICTを活用していない状況でも、今年度の柏原市は結果がよかったと。

今後、ICTを活用していくことで学力が下がるということは想定しておられますか。

小室課長：下がることは想定しておりません。

太田委員：分かりました。ピックアップするのであれば、ただ教員がICTを使っていないといったものよりも、番号42の「わからないことや知りたいことがあったとき、本やインターネット等で調べている」のように、結果は悪いけれども子どもたちやご家庭にもフィードバックできるような内容の方がよいのではないかと思います。

田中教育長職務代理：授業でICTを活用できていないことについて、どのような要因が考えられますか。

小室課長：環境の問題はあったのかなと思います。全員でネットワークに繋がると遅くなったりしてしまっていたので。こちらについては端末入替の際に回線速度を増強して対応しました。また、先生方の意見も参考にし、授業支援ソフトを直感的で分かりやすいものに変更しました。

田中教育長職務代理：なるほど。次年度にどうなるか注目が必要ですね。他にご意見、ご質問等ございますか。

西村委員：ICTを使うメリットは、バラつきのある子どもたちの特性に合わせて本人が学習スタイルを選ぶことができ、それが学力の向上に繋がることだと考えています。そのための授業改善は必要だと思います。

小室課長：ありがとうございます。いただいたご意見を参考にし、結果概要に挙げるアンケート回答状況を見直しいたします。

田中教育長職務代理：ご質問、ご意見等ございましたらお願いいたします。

委員全員：なし。

田中教育長職務代理：ないようでございますので、議案第23号について、原案を一部修正して承認してよろしいでしょうか。

委員全員：異議なし。

田中教育長職務代理：それでは、議案第23号令和7年度すくすくウォッチの結果の公表内容については、一部修正の上、承認することにいたします。

(指導課より学校公開訪問日について、教育総務課より教育委員会表彰式典のご案内についてそれぞれ報告)

以上で第10回定例教育委員会会議を閉会いたします。

本教育委員会会議の議事の経過に相違ないことを証するためにここに署名する。

令和 年 月 日

柏原市教育委員